

第 15 回

日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会

プログラム・抄録



テーマ:

「地域医療にこそ医療 DX を」

日 時 ■ 2025年11月15日(土曜日)10:00～16:00

会 場 ■ 松山市医師会館

会場 住所 ■ 〒790-8601 愛媛県松山市藤原2丁目 4-70

TEL 089-915-7700

学術集会会長 ■ 鬼北町立北宇和病院 院長 吉田 幸生

「第 15 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会」開催にあたって

◆学術集会会長あいさつ

第 15 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長

吉田 幸生(鬼北町立北宇和病院 院長)

この度、第 15 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会を 2025 年 11 月 15 日に松山市医師会館にて「地域医療にこそ医療 DX を」というテーマで開催させていただくことになりました。

私が院長を務めます鬼北町立北宇和病院でも昨年ようやく電子カルテシステムの導入を行い、遅ればせながら医療 DX の推進に取り組み始めたところであります。デジタル技術の進歩は目覚ましいものがあり、特にこの近年の AI 技術の急激な進歩は医療の面でも大きな変革をもたらし、革新的な診断技術が開発されています。また、コロナ禍における感染予防を機にオンラインでの診療や処方も都市部では一般化しつつあります。一方、危機が叫ばれ続けて久しい地域医療の改革は遅々として進まない状況です。医療従事者不足、地域間の医療レベル格差、医療機関の偏在など地域医療の問題点は人的、空間的、時間的ハンディキャップに集約されます。ICT の活用により情報の共有、普遍化を図ることはこれらの障壁を克服し得る有用な技術であり、地域医療にこそ医療 DX が必要であると考えます。

ここ数年、当学術会議でも医療 DX がテーマとして取り上げられ、既に先進的な取り組みに着手されているご施設もあるかと思いますが、当院のようにようやくスタートラインに立ったところ、あるいはまだまだ取り組む体制が整っていないご施設も多いかと思います。また、施設レベルだけでなく、各個人個人の IT リテラシーにもまだまだ格差が大きい状態です。実際、当院の電子カルテ導入に際しても不安を訴える職員が多数おりました。病院、システムベンダーとも一丸となり、ヒアリング、研修を繰り返すことにより、結果として脱落者を出すことなく導入、運営ができておりますが、現在でもシステムトラブル等の際に自力で対応できる職員は限られております。有用な技術を万人がストレスなく利用できる状態まではまだまだ時間と啓発、さらなる技術革新が必要と考えます。当学術集会がその一助となれば幸いです。

愛媛県各地よりご参加される皆様にとりまして、充実した楽しい学会となりますよう鋭意準備して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

「第 15 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会」開催にあたって

◆愛媛県支部支部長あいさつ

櫃本 真幸(日本医療マネジメント学会愛媛県支部支部長・四国医療産業研究所所長)

戦後のベビーブーム世代の全てが 75 歳以上になる「2025 年問題」、地域包括ケアシステムの節目年となりました。しかし現状は急性期医療中心型の体制は継続し、生活に戻すというキーワードは、医療・介護者、そして住民にも浸透している状況ではありません。次期節目である 2040 年に向けて、健康維持・増進するためのセルフケアや、生活を重視したその人らしい生き方・死に方を実現するシステムへと、速やかにチェンジさせていかなければなりません。「失われた 30 年」は、20 世紀から地方分権が強調されながらも、結果的には逆方向へ舵を切り、中央集権化が進んでしまったことに主因があります。地方自らが地域をエンパワーして、地域力を醸成する方向へ全力集中することが肝要であり、当学会の責任や使命を改めて痛感しています。

さて第 15 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会は、吉田幸生総会長のもと、鬼北町立北宇和病院の主催で、11 月 15 日に松山市医師会館にて開催されます。「地域医療にこそ医療 DX を」というテーマのもと、広島市立大学大学院情報科学研究科 医用情報科学専攻 講師 伊藤 孝弘先生をお招きしております。医療 DX の目的は、「国民のセルフケア力の向上を図り、良質かつ適切な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えること」とされています。

DX 推進は、まさに地域のパフォーマンスを引き上げる原動力、その活用を十分に図ることが、地域包括ケア推進にとっても不可欠であり、共に学びたいと思います。

一連のチェンジが元気高齢者を生みだし、その影響を若者たちも実感することで、少子化への V 字回復が期待できるのではないのでしょうか。地域再生により支え合う国民性を賦活化できれば、2040 年に向けた明るい将来が見えてくる。

本学会や学術集会が、その後押しとなるよう、皆様のご支援を心から期待しております。

会場案内

◆会場へのアクセス

松山市医師会館 いきいきホール 大会議室 A 大会議室 B
〒790-8601 愛媛県松山市藤原2丁目 4-70

TEL 089-915-7700



JR松山駅から車で約5分

伊予鉄バス北伊予線(松山市駅6番のりばより北伊予駅前方面行き)雄郡小学校東門前より徒歩3分
伊予鉄道 土橋駅より徒歩8分、松山市駅より徒歩12分

松山インターから車で約15分

◆会場ご案内

第15回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会では、松山市医師会館を使用します。

プログラム

会 場 松山医師会館いきいきホール 大会議室 A 大会議室 B

〒790-8601 愛媛県松山市藤原 2 丁目 4-70

TEL:089-915-7700

FAX:089-915-7710

会 期 2025 年 11 月 8 日(土曜日)10:00~16:00

学術集会会長 吉田 幸生(鬼北町立北宇和病院院長)

テーマ 「地域医療にこそ医療 DX を」

9:00~ 日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員会【大会議室 A】

9:30~ 開場・受付

10:00~10:05 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会【いきいきホール】

開会挨拶 吉田 幸生 (鬼北町立北宇和病院院長)

10:05~10:15 移動

一般演題【大会議室 A】

10:15~11:15 一般演題(1)

座長:米川 幸秀 (鬼北町立北宇和病院 内科医長)

一般演題【大会議室 B】

10:15~11:15 一般演題(2)

座長:崎田 智美 (愛媛大学医学部附属病院 看護部長)

11:30~12:30 一般演題(3)

座長:岡部 健一 (旭川荘南愛媛病院 院長)

12:30~12:40 移動・休憩

12:40～13:00 日本医療マネジメント学会愛媛県支部総会 【いきいきホール】

愛媛県支部長挨拶

檀本 真幸(日本医療マネジメント学会愛媛県支部長)

議事討議(議長:支部長)

進行事務局代表 石川 賀代 (HITO 病院 理事長)

第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会 優秀演題賞

並びに奨励賞表彰

13:00～14:00 休憩・昼食(60分)

14:00～15:00 特別講演 【いきいきホール】

「医療 DX を支える通信技術:ウェアラブルセンシングとボディエリアネットワーク標準化の最前線」

演者:伊藤 孝弘先生

(広島市立大学 大学院情報科学研究科 医用情報科学専攻 講師)

座長:吉田 幸生 (鬼北町立北宇和病院)

15:00～15:15 質疑応答

15:15～15:20 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会【いきいきホール】

閉会挨拶 吉田 幸生 (鬼北町立北宇和病院 院長)

学術集会参加費:日本医療マネジメント学会 一般正会員 1,000 円

非学会員 1,500 円

日本医療マネジメント学会愛媛支部役員 1,500 円

その他:なお当日、日本医療マネジメント学会愛媛支部役員会並びに総会をあわせて行います。会員の皆様、是非ともご参加お願いします。なお、会員の皆様だけでなく、一般参加也大歓迎です。

連絡先:日本医療マネジメント学会愛媛県支部事務局

社会医療法人石川記念会 HITO 病院 理事長 石川 賀代

〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町 788-1

[TEL:0896-29-5604](tel:0896-29-5604)、[FAX0896-59-2282](tel:0896-59-2282)

メール management-ehime@hito-medical.jp

【カテゴリー】

クリティカルパス	1-1 作成・導入、1-2 電子化クリティカルパス、 1-3 アウトカム分析・バリエーション分析、1-4 その他
医療安全	2-1 インシデントレポート・ヒヤリハット報告 2-2 安全管理、安全対策、2-3 危機管理、2-4 カルテレビュー、 2-5 安全教育・研修、2-6 コンフリクト、2-7 クレーム 2-8 その他
医療の質	3-1 個人情報保護、3-2 コンプライアンス、3-3 感染対策、 3-4 栄養管理・NST、3-5 褥瘡対策、3-6 チーム医療 3-7 臨床指標、3-8 口腔ケア、3-9 その他
医療情報	4-1 電子カルテ・IT関連、4-2 診療録管理、4-3 広報活動、 4-4 その他
地域医療連携	5-1 地域連携ネットワークシステム、 5-2 地域連携クリティカルパス、5-3 患者支援・退院支援、 5-4 在宅医療、5-5 救急医療、5-6 リハビリ、5-7 その他
教育	6-1 人材育成、6-2 コーチング、6-3 認定看護師、 6-4 看護教育・教育、6-5 その他
病院運営	7-1 診療報酬、7-2 病歴管理、7-3 物流管理 7-4 病院マネジメント手法、7-5DPC、7-6 コスト管理、 7-7 組織運営、7-8 モチベーション向上、7-9 その他
患者サービス	8-1CS向上、8-2 患者教育、8-3 その他
看護業務	9-1 看護運営、9-2 看護必要度、9-3 チーム医療、9-4 その他
検診業務	10-1 生活習慣病、10-2 その他
その他	11-1 その他

参加者の皆さまへお願い

◆座長の皆さまへお願い

受付は 9 時 30 分より開始いたします。担当セッション開始時間の 15 分前には次座長席またはその周辺の席にお着きください。

演題発表後のフロアからの質問につきましては、あらかじめ座長より「質問のある方は挙手の上、質問をお願いします。なお質問においては、まず所属と氏名を名乗ってから簡潔にお願いします。」のアナウンスを行い、質疑を開始してください、時間厳守でお願いします。口演は 6 分で 1 回、7 分で 2 回ベルを鳴らします。質疑応答は 2 分で 2 回ベルを鳴らします。

また、日本医療マネジメント学会愛媛県支部では、お互いの呼称を「〇〇先生」とせず、文書では「〇〇様」、呼ぶ時には「〇〇さん」とさせていただきます。特別講演の演者のみ「〇〇先生」と呼びます。

◆演者の皆さまへのお願い

受付は 9 時 30 分より開始いたします。学会スタッフよりご案内いたしますので、データの動作確認をお願いします。また、担当セッション開始時間の 5 分前には次演者席にお集まりください。会場で使用するパソコンは Windows のみです。アプリケーションは PowerPoint です。音声は利用できません。担当セッションの 30 分前までに受付でデータの動作確認を行ってください。

一般演題は、口頭 7 分、質疑応答 2 分です。口演は 6 分で 1 回、7 分で 2 回ベルを鳴らします。スライドの枚数に制限はありませんが、ご講演時間内に終了するように準備してください。また、質疑応答は座長の指示に従ってください。

◆参加者の皆さまへのお願い

今回の一般演題は大会議室A及び大会議室Bの 2 会場で行います。学会スタッフよりご案内いたしますので移動をお願いします。

昼食は大会議室でお取りください。松山医師会館内に飲み物類の自動販売機はありません。ご持参ください。

第 15 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長

鬼北町立北宇和病院 院長 吉田 幸生

開会挨拶(10:00～10:05)いきいきホール

第 15 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長

吉田 幸生（鬼北町立北宇和病院長）

一般演題(1)(10:15～11:15)大会議室 A

座長：米川 幸秀（鬼北町立北宇和病院 内科医長）

演題①：体重測定データの電子カルテ連携による看護業務の効率化と安全管理

西田 慎太郎（にしだ しんたろう）

愛媛大学医学部附属病院 看護部

演題②：入退院支援クラウドを用いた転院調整による業務の効率化について

池田 聖（いけだ たかし）

愛媛大学医学部附属病院 総合診療サポートセンター 主任社会福祉士

演題③：退院支援計画書の確実な交付に向けた取り組み

小越 美紀（こごえ みき）

愛媛大学医学部附属病院 総合診療サポートセンター

演題④：ICT を活用した看護師業務の効率化

川和田 絵里（かわわだ えり）

社会医療法人石川記念会 HITO 病院 看護部 副看護師長

演題⑤：当院における電子カルテ導入実績：計画の具体的経過と運用評価

吉田 幸生（よしだ ゆきお）

鬼北町立北宇和病院 院長

※1 題発表7分、質疑応答2分、時間厳守でお願いします。

演題① : 体重測定データの電子カルテ連携による看護業務の効率化と安全管理

演者名 : 西田 慎太郎 (にしだ しんたろう)

所属 : 愛媛大学医学部附属病院 看護部

共同演者名: 山内美砂子(やまうちみさこ)、山本可奈(やまもとかな)

演題内容

【背景・目的】

A 病院では、患者の体重測定値を看護師がメモに記載した後、電子カルテに入力していた。しかし、記録の遅延や入力ミスにより、治療の遅れや薬剤投与量の間違い等が発生していた。そこで、測定値を自動的に電子カルテへ転記するシステムを活用し、業務効率化とインシデントの低減を図った。

【方法】

体重計を電子カルテとネットワーク連携させ、測定と同時にデータを自動転記できる仕組みを構築した。運用は各部署のスタッフと話し合い、進めた。

【結果】

システム導入後、体重データの手入力は減少し、転記に要していた業務時間が削減された。導入以降、入力ミスに起因するインシデントは発生していない。

【考察】

本取り組みにより、看護業務の効率化と医療安全の向上が確認された。電子カルテとのリアルタイム連携は、ヒューマンエラー防止に有効である。ICT の活用により、看護現場における業務改善と安全管理の両面で有用であると考ええる。

カテゴリ- = 9-4 (看護業務. その他)、4-1 (電子カルテ. IT 関連)

演題② :入退院支援クラウドを用いた転院調整による業務の効率化について

演者名 :池田 聖 (いけだ たかし)

所属 :愛媛大学医学部附属病院 総合診療サポートセンター 主任社会福祉士

共同演者名:坂本ゆり(さかもとゆり)、大崎純子(おおさきじゅんこ)、平井美奈子(ひらいみなこ)、山口眞美(やまぐちまみ)、廣岡昌史(ひろおかまさし)

演題内容

当院では、年間約 2,000 件の相談支援依頼を受けており、そのうち半分以上の約 1,200 件は、転院調整(在宅調整を含む)である。転院調整では 1 患者あたり 75~240 分(平均 172.5 分)の時間を要しており、そのうち約 30 分は電話対応である。

今年度、転院調整業務のDX化による担当者の負担軽減を目的として、入退院支援クラウドを導入した。連携の多い医療機関から声掛けを行い、現在 11 医療機関と連携している。チャット機能を利用することで、連携先からは患者情報や転院日時を確実に伝えられる、相手方の時間を気にすることが少なくなった、業務効率が向上した、という意見が聞かれている。一方で、担当者と直接やりとりする機会が減る、電話の方がすぐに解決するなど、導入に慎重な医療機関もあり課題も残っている。DX化により確保できた時間は、患者対応やIC同席による意思決定支援、退院前カンファレンスの実施など、連携業務を強化して患者サービスの向上につなげたい。

カテゴリー＝5-1(地域連携ネットワークシステム)

演題③ :退院支援計画書の確実な交付に向けた取り組み

演者名 :小越 美紀 (こごえ みき)

所属 :愛媛大学医学部附属病院 総合診療サポートセンター

共同演者名:山口眞美(やまぐちまみ)、坂本ゆり(さかもとゆり)

演題内容

A病院では入退院支援加算 1 を算定しており、退院調整部門と病棟看護師が協働し年間 3,500 件の加算を算定している。入退院支援加算は早期からの退院支援を目指すものであり、退院支援困難な要因の抽出、支援計画の立案と患者説

明、カンファレンスの開催とともに退院支援計画書(計画書)の作成・交付が求められる。令和 5 年度は算定対象患者に対する、計画書の交付が確認できない事例が 55 件あった。そこで、計画書の作成・交付の状況を一目で確認・共有ができる電子カルテの統合閲覧システムを活用し、作成及び交付の漏れを防ぐ取り組みを開始した。システムの活用方法を病棟に周知し協働したところ、令和 6 年度は34件、令和7年度の交付漏れは3ヶ月で1件に減少した。退院調整部門と病棟が電子カルテシステムを用いてチェック機能を働かせることで、交付漏れを防止することにつながった。

カテゴリ=7-1(診療報酬)

演題④ :ICT を活用した看護師業務の効率化

演者名 :川和田 絵里 (かわわだ えり)

所属 :社会医療法人石川記念会 HITO 病院 看護部 副看護師長

共同演者名:小山晴世(こやまはるよ)、喜多翔太(きたしょうた)、森内みね子(もりうちみねこ)

演題内容

【背景】

少子高齢化による労働力人口の減少等により看護職の確保が困難な中、質の高い看護を提供するために、看護業務の効率化は喫緊の課題である。課題を解決するために当院では、ICT を活用した取組みを推進している。地域の特性として後期高齢者の入院が多く、ナースコールでの会話が困難で常時見守りを必要とする患者が増えている。そのため夜間の看護師による訪室の負担が大きく、夜勤の看護師の業務改善が課題である。

【目的】

ICT を活用した見守り方法を導入することで、夜間の看護師の業務負担軽減を目指す。

【方法】

ナースコールでの会話が困難な患者の病室ヘカメラを設置し、夜間帯にスマートグラスやスマートフォンから遠隔でモニタリングを行った。

【結果・考察】

スマートグラスの導入により、夜間看護師の歩行距離は導入前の 8.1kmから 6.4kmへ短縮し、訪室回数は 20%減少した。時間外勤務は 101.79 時間減少した。スマートグラスの活用により業務を遂行しながら、ナースコールと同時に映像を確認し必要な訪室が見極めることで夜間帯の負担軽減に繋がったと考える。

カテゴリー＝9-4(看護業務・その他)

演題⑤：当院における電子カルテ導入実績：計画の具体的経過と運用評価

演者名：吉田 幸生（よしだ ゆきお）

所属：鬼北町立北宇和病院 院長

演題内容

当院では、昨年度、長年の懸案であった電子カルテ導入を行った。導入に際しては、地域医療を担う公立病院としての役割、職員不足や厳しい経営状況など多数の問題を抱える当院の現状に見合ったシステム作りを目指した。職員に対する希望調査や聞き取り、習熟のためのセミナー開催、さらには業者委託であった医事課業務の直営方式への移行も含めた全職員一丸となつての取り組みにより大きなトラブルなく導入、運用ができたと考える。しかしながら、細かな運用上のトラブル対処や手順の効率化等に関しては職員個人個人のITスキルに関わる部分が大きく、全職員がストレスなく利用できるよう、職員間での情報共有を念頭に運用を進めている。導入後1年が経過し、マイナンバー保険証導入など、さらなる医療DXへの連携も進んでいる。今回、あらためて導入計画から実際の運用状況までの経緯を検証し、現時点での成果、反省点について考察を行った。

カテゴリー＝4-1(電子カルテ・IT 関連)



一般演題(2)(10:15～11:15)大会議室 B

座長 : 崎田 智美 (愛媛大学医学部附属病院 看護部長)

演題⑥ : 継続看護を支える外来・病棟一元化の看護職配置-夜勤者確保と看護の質向上へのアプローチ-

山岡 多恵(やまおか たえ)

愛媛大学医学部附属病院 看護部 副看護部長

演題⑦ : 認知症患者への院内デイケア導入による効果

近藤 由香 (こんどう ゆか)

医療法人 住友別子病院 病棟師長

演題⑧ : 中途採用看護師等の定着を目指した取り組み～働きやすい職場環境を目指すWG 活動についての紹介～

武田 恵 (たけだ めぐみ)

医療法人 住友別子病院 4 南病棟師長

演題⑨ : 院内がんサバイバーシップ支援委員会の具体的活動

青儀 健二郎 (あおぎ けんじろう)

NHO 四国がんセンター がんサバイバーシップ支援委員会

演題⑩ : 看護師の就労環境改善に繋がった新人事制度

守屋 昭子 (もりや あきこ)

医療法人 住友別子病院 看護部 看護部長

※1 題発表7分、質疑応答2分、時間厳守でお願いします。

演題⑥：継続看護を支える外来・病棟一元化の看護職配置-夜勤者確保と看護の
質向上へのアプローチ-

演者名：山岡 多恵（やまおか たえ）

所属：愛媛大学医学部附属病院 看護部 副看護部長

共同演者：崎田 智美（さきた さとみ）

演題内容

【はじめに】

A 病院は、在院日数短縮と看護職不足が進む中、特に夜勤要員の確保に課題があった。そこで、外来と病棟の看護職配置を一元化し、看護業務の効率化と継続看護の充実を図った。

【目的】看護の質を保ちつつ、看護師の勤務負担軽減を図る。

【方法】外来看護職は看護師長と副看護師長がマネジメントを担い、病棟看護職は病棟と関連外来を分担する体制とした。

【結果】導入 1 年後、看護職一人当たり夜勤時間は、72.9 時間から 70.6 時間に減少。継続的な患者指導の実施や外来記録の増加が認められた。

【考察】看護職配置の一元化により、外来と病棟業務の共有が進み、夜勤・休日勤務の調整が可能となった。これは、看護職の勤務負担減に繋がったと考える。継続看護が強化されたが、看護の質評価は今後の課題である。

【結論】外来・病棟における看護体制の一元化は、看護職の勤務の均等化と継続看護の推進に有効である。

カテゴリー＝9-1(看護運営)

演題⑦：認知症患者への院内デイケア導入による効果

演者名：近藤 由香（こんどう ゆか）

所属：医療法人 住友別子病院 病棟師長

演題内容

2024 年度当院入院患者の 77%が 65 歳以上の高齢者であり、そのうち認知症ケア加算を算定している患者は 17%である。当院看護部では、認知症ケアの質向上を目指して認知症ケア委員会を設置している。認知症ケア委員会では、2024 年度より認知症患者を対象とした院内のデイケアを開始した。院内デイケアは、入院後の患者の安静制限による身体機能の低下や環境変化による生活リズム障害、せん妄発症、認知症の進行などの予防を目的に実施している。院内デイケアに参加する事で、院内デイケアに参加する前からせん妄があった患者は、院内デイケア参加後せん妄の出現が減少した。また、院内デイケア参加前は不眠であった患者も院内デイケア参加後、睡眠状況に改善がみられたので報告する。

カテゴリ=8-3(患者サービス・その他)

演題⑧：中途採用看護師等の定着を目指した取り組み～働きやすい職場環境を目指す WG 活動についての紹介～

演者名：武田 恵（たけだ めぐみ）

所属：医療法人 住友別子病院 4 南病棟師長

演題内容

昨今の少子化による医療人材不足、ワークライフバランスによる価値観の変化は、多様な働き方が求められ看護師の定着率は年々低下している。慢性的な看護

師不足のなか、新規入職者の獲得、既存看護師の定着は病院経営の安定化には欠かせない。当院は、中途採用者も積極的に受け入れ2023年度も13名の入職があったが、環境の変化になじめず3名の退職があった。既存看護師と中途採用者間での人間関係構築の未熟さや、受け入れ側の準備不足が定着を阻む要因であることがアンケート結果より明らかとなった。

そこで、2024年度働きやすい職場環境を目指すWG(以下WG)を立ち上げ改善を目指し活動を開始した。具体的活動は、①中途・派遣看護師を対象とした「つぶやきカフェ」開催による話し合いができる環境づくり②アンケートを基に作成した「業務改善ワンポイントファイル」の準備の2点である。WGメンバーが行った2024年度取り組みを報告する。

カテゴリ＝7-7(組織運営)

演題⑨：院内がんサバイバーシップ支援委員会の具体的活動

演者名：青儀 健二郎（あおぎ けんじろう）

所属：NHO 四国がんセンター がんサバイバーシップ支援委員会

演題内容

がんサバイバーシップケアの展開として、多職種によるがんサバイバーシップ支援委員会を2024年11月に設立した。具体的な活動は、

- 1)「トライアングルエヒメ推進事業～デジタル実装加速化プロジェクト(R6-R7)」に採択されたWEB栄養管理ツールによるがん患者さんの食事摂取状況と体調変化や副作用に関する情報収集を行い、90%を超える情報の共有ができた。
- 2)院内AYAスクリーニングと情報共有を月1回行い、AYAサロン開催も増やし、周知用ロゴマークを院内外に募集している。
- 3)チャイルドケアとして当院のがん診療を理解してもらう「キッズ探検隊」を行っ

た。

4)「HBOC 患者の RRSO 後ヘルスケアプログラムの安全性と有用性に関する Feasibility study」を計画し、倫理委員会の通過後研究開始した。

がんサバイバーシップケア活動の受け皿としてケア活動の充実を展開していく。

カテゴリー＝3-6(チーム医療)

演題⑩：看護師の就労環境改善に繋がった新人事制度

演者名：守屋 昭子（もりや あきこ）

所属：医療法人 住友別子病院 看護部・看護部長

演題内容

2021 年、少子高齢化が進む中で、高齢者がその能力を十分に発揮できる環境を整えることを目的とし高齢者雇用安定法改正が発令された。これを受け、当院では、2022 年度からコンサルテーション受けながら人事制度改定を計画し、2023 年度より一挙に 65 歳定年を打ち出し運用が開始された。看護部では、この人事制度改定は人事評価における課題解決のタイミングと考え、看護部の要望を提案しながら取り組んできた。要望を取りまとめるにあたり、日本看護協会の「看護職のキャリアと賃金モデル」を参考にし、等級数の増を希望し、管理者である師長の等級確保、認定看護師の手当、育児休業取得者の昇級の遅れなど具体的な課題を訴えた。結果、これらの課題は解決され、更に人材確保が大きな課題となっている中で、60歳以上の人材確保にも繋げることが出来たので報告する。

カテゴリー＝9-1(看護運営)

一般演題(3)(11:30～12:20)大会議室 B

座長：岡部 健一（旭川荘南愛媛病院 院長）

演題⑪ 退院後自宅訪問し、その後有効な入退院支援を行えた一事例

菊池 幸恵（きくち ゆきえ）

市立八幡浜総合病院 地域連携室

演題⑫ 看護師の病棟経験年数による身体抑制に対する意識調査と今後の課題

越智 萌果（おち もえか）

社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院 看護部

演題⑬ 当院におけるせん妄対策マニュアル作成と周知活動の効果～睡眠薬処方量・転倒転落率の変化～

福永 剛士（ふくなが たけし）

十全総合病院 看護部主任

演題⑭ カンフォードダブル・ケアについて、看護スタッフの理解力の有無と技術実践に向けての課題

野網 浩美（のあみ ひろみ）

十全総合病院 看護部

演題⑮ ロボット機器がつなぐ看護とリハ-認知症患者の歩行意欲を引き出した多職種協働の試み-

徳丸 智也（とくまる ともや）

社会医療法人石川記念会 HITO 病院 リハビリテーション部

演題⑪：退院後自宅訪問し、その後有効な入退院支援を行えた一事例

演者名：菊池 幸恵（きくち ゆきえ）

所属：市立八幡浜総合病院

演題内容

【目的】今回、心不全にて入退院を繰り返している症例に、ケアマネとともに退院後自宅訪問し、在宅での問題点を明確にした。その後有効な入退院支援につながったので報告する。

【症例】80歳女性、介護保険未申請。夫と二人暮らし。娘は県外在住。在宅生活の期間が短くなり、1カ月をもたず再入院となる。

【考察】在宅生活期間が短くなるということは生活面での問題点が必ずあり、その問題点を明確にすることは在宅生活を支援する上で重要である。また、介護保険利用に対し受け入れが悪い場合、その背景を知ることは在宅生活を支援する上で重要になる。入退院の原因や問題点を明確にするため、自宅訪問を実施することで、内服環境・食事面に問題がある、住環境が整っていないと自宅で過労作になっていることが明らかとなった。介護サービスの受け入れに関しては、夫のみ自分たちのスペースに他人が入ることに拒否感がある点が明らかとなった。その点を考慮し支援に入ることで生活面を支えることができた。明らかとなった問題点を院内・院外の多職種で支えることで有効な入退院支援が行える。

【結論】在宅療養する高齢者は、実際の生活を見ることで問題点が明らかとなり、有効な入退院支援・介護サービスの利用につなげることができる。その結果、在宅療養を継続し、再入院を予防することができる。

カテゴリ=5-3(患者支援・退院支援)

演題⑫：看護師の病棟経験年数による身体抑制に対する意識調査と今後の課題

演者名：越智 萌果（おち もえか）

所属：社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院

共同演者名：大森 舞花（おおもり まいか）

演題内容

当院は急性期病院であり、患者の安全確保や生命維持に必要な治療のために身体抑制を行わざるを得ない状況にある。本研究では、病棟看護師の病棟経験年数と身体抑制に対する意識の関連性、今後の課題を明らかにするためアンケートを実施し分析を行った。その結果、3つの質問において有意差が認められた。1群の方が身体抑制開始時に誰かと相談しており、身体抑制マニュアルを知らないという結果が得られた。また1群は身体抑制の方がドレーン再挿入より苦痛が少ないと感じていたが、自由回答では両群とも抑制に対する迷いを抱えていた。今後の課題として身体抑制に対する意識を高め、看護師間での経験を共有する場として勉強会などを実施し、看護師個人のアセスメント能力の育成を行っていくとともに、身体抑制・拘束マニュアルに基づいたフローチャートの作成と周知が課題として挙げられる。

カテゴリー＝3-9(医療の質・その他)

演題⑬：当院におけるせん妄対策マニュアル作成と周知活動の効果～睡眠薬処方量・転倒転落率の変化～

演者名：福永 剛士（ふくなが たけし）

所属：十全総合病院

演題内容

I.はじめに

せん妄は発症することで患者に苦痛が生じ、関連要因として不眠や転倒転落により看護師の業務負担が増大する。また、不眠時に使用される睡眠薬にもせん妄のリスクがあることから、2024年に多職種によるせん妄対策チームを立ち上げ睡眠薬の見直しを開始した。せん妄対策マニュアルを作成し、せん妄リスクのある睡眠薬からオレキシン受容体拮抗薬(レンボレキサント)への変更を推奨する活動を行った。これらの活動前後での睡眠薬の処方量と転倒転落率の変化を調査した結果を報告する。

Ⅱ.目的

せん妄対策チームの院内周知活動の効果を明らかにする。

Ⅲ.方法

せん妄対策チームの活動前後の睡眠薬の処方量と転倒転落率の調査を実施し分析した。

Ⅳ.結果

既存の院内主要睡眠薬3剤の処方量は2割減少しレンボレキサントの処方量は2倍に増加、転倒転落率は2.61%から1.89%へ減少した。以上より、せん妄対策チームの周知活動は院内の睡眠薬使用の適正化、転倒転落率の減少に効果があった。

カテゴリ-9-3(チーム医療)

演題⑭：カンフォードブル・ケアについて、看護スタッフの理解力の有無と技術実践に向けての課題

演者名：野網 浩美（のあみ ひろみ）

所属：十全総合病院 看護部

演題内容

A 病院の病棟部署では、3割程度が認知症患者で占めている。カンフォードブル・ケア(以下 CC)というケアがあるが実際には行えていない。今回の研究では認知症患者の関わり方についての現状と看護師が抱える認知症患者の対応方法についての問題点を調査し課題を明らかにする。看護師85名は認知症の患者の対応について困っていた。困っている内容については点滴などのチューブの自己抜去が一番多く、困ったときには身体拘束が一番多かった。認知症の研修を受けたい看護師は52名と回答し69名が認知症の患者への対応について学びたいと答えた。結果より全病棟看護師は認知症の患者への対応について困っており、CCについて理解している看護師は半数にも及ばなかった。しかしその中でも認知症に対しての勉強に意欲があることが分かった為、認知症者の対する関わり方についての

勉強会や全体研修を行うことが必要。

カテゴリー＝6-4(看護教育・教育)

演題⑮：ロボット機器がつなぐ看護とリハ-認知症患者の歩行意欲を引き出した多職種協働の試み-

演者名：徳丸 智也（とくまる ともや）

所属：社会医療法人石川記念会 HITO病院 リハビリテーション部

演題内容

今回、腰椎圧迫骨折を呈し、疼痛に伴う身体・精神的負担から離床意欲低下や歩行拒否傾向を来した認知症患者に対し、理学療法士(PT)と看護師(Ns)の協働で Panasonic 社 Walk training robo(以下 WTR)を使用した WTR は負荷調整機能を備えた歩行器であり、歩行状態をリアルタイムに可視化できるほか、声掛けや音楽により歩行意欲を高める機能を有する。そこで、歩行を楽しみながら機能回復を図る事を目的とし、初回は PT が、以降は Ns が週5回、計4週実施した。歩行データや Ns の観察所見を基に、PT が適宜負荷量を調整した。結果、TUG は 72 秒短縮、距離は 5m→100mに改善した。トイレ移動は、車椅子介助から歩行器見守りへ改善し、訓練中に笑顔も見られた。本症例におけるWTRの活用は、歩行能力の向上に加え、ADLにおける自立度の向上や行動変容、さらには精神的な活性化にも寄与したと考えられる。

カテゴリー＝3-6(チーム医療)

特別講演(14:00～15:00)いきいきホール

今回の特別講演は本学術集会のメインテーマである医療 DX に重点を置き、企画を検討いたしました。ご承知の通り、近年の医療情報技術を含めた IT 技術の進歩には目を見張るものがあり、日々知識のアップデートが必要な状況です。真に優れた科学技術は、その原理を知らずとも万人が利益を享受できるものではありませんが、我々が日常的に直面している臨床の現場においても、その根幹にあるものは解剖学、生理学、薬理学などの基礎理論です。新しい技術を有効に活用するためにも、その基礎となる知識が重要と考えます。こういった観点から、今回はエンジニア等の技術者のお立場からのご講演を企画いたしました。現在、国公立大学で唯一医療情報学科を有する広島市立大学の式田光弘教授よりご紹介いただき、同大学院講師の伊藤孝弘先生にお願いし、ご快諾をいただきました。

医療情報技術の第一線でご活躍されている先生のご講演により、聴講される皆様の IT リテラシーが充実し、更には今後の新技術への発展の足掛かりになれば幸いです。

座 長:吉田 幸生(鬼北町立北宇和病院 院長)

演題名:医療 DX を支える通信技術:

ウェアラブルセンシングとボディエリアネットワーク標準化の最前線

講 師:伊藤 孝弘 先生(広島市立大学大学院情報科学研究科医用情報科学専攻講師)

概 要:医療 DX の進展により、ウェアラブルデバイスを用いた生体データの連続モニタリングが注目を集めています。これらのセンシング技術を支えているのが、身体周辺に張り巡らされた無線通信ネットワーク「ボディエリアネットワーク(BAN)」です。

本講演では、まずウェアラブルセンシングと BAN の基本的な構成について簡単に触れたうえで、現在私たちが関わっている BAN の国際標準化(SmartBAN)の動向をご紹介します。

さらに、現在開発中のウェアラブルセンサを用いたヘルスケアシステムについてもご紹介します。

本講演の内容が、今後の地方医療や地域ヘルスケアの将来を考える一助となれば幸いです。

講師紹介:

伊藤 孝弘(Ito Takahiro)

広島市立大学大学院情報科学研究科医用情報科学専攻 講師 工学博士

*研究分野 情報通信/情報ネットワーク ライフサイエンス/生体工学

*略 歴

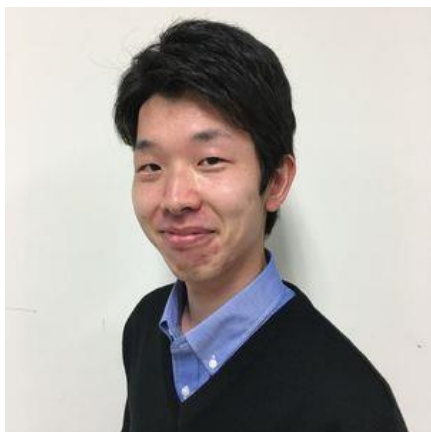
2013 年 3 月	名古屋工業大学工学部電子工学科卒
2015 年 3 月	名古屋工業大学工学研究科情報工学専攻博士前期課程終了
2017 年 3 月	名古屋工業大学工学研究科情報工学専攻博士後期課程終了
2017 年 4 月	名古屋工業大学大学院工学研究科電気・機械工学専攻 助教
2020 年 4 月	広島市立大学大学院情報科学研究科医用情報科学専攻 助教
2023 年 4 月	現職

*所属学会

IEEE(Institute of Electrical and Electronics Engineers :米国電気電子学会)
電子情報通信学会

*受賞歴

2019 年 3 月	エレクトロニクスシミュレーション研究会優秀論文発表賞 「サブグリッド法を用いたボクセル平均化による SPFD 解析の高速化」 「サブグリッド法を用いた人体モデルの高速 SPFD 解析」
2021 年 11 月	第 44 回日本生体医工学会中四国支部大会若手講演奨励賞 包路線モデル化による正規化心電信号・呼吸数の同時推定に関する一検討
2025 年 9 月	通信ソサイエティ活動功労賞 電子情報通信学会 (ResearchMap.JP より抜粋・転載)



日本医療マネジメント学会愛媛県支部 会則

(名称)

第 1 条 本支部は日本医療マネジメント学会愛媛県支部と称する。

第 2 条 本支部の事務局は社会医療法人石川記念会 HITO 病院に置く。事務局は会計を兼任する。

(目的)

第 3 条 本支部は日本医療マネジメント学会の地方支部として、医療マネジメントに関する学術、研究の交流をはかり、医療の進歩に資することを目的とする。

(事業)

第 4 条 本支部は前条の目的を達成するために学術集会、研究発表会ならびに講演会の開催を行う。

(会員の資格)

第 5 条 本支部は、愛媛県に在住または勤務する日本医療マネジメント学会会員を以て構成する。

(学術集会)

第 6 条 本支部は年1回以上学術集会を開催する。学術集会のうち主たるものを支部学術集会と呼ぶ。

第 7 条 支部学術集会の演者は招待講演者を除き、必ず、日本医療マネジメント学会の会員であることとする。

(入会・退会の手続き)

第 8 条 本支部への入会は日本医療マネジメント学会に入会手続きを行うことにより行う。日本医療マネジメント学会を退会した場合には、本支部を退会したものとする。

(役員)

第 9 条 本支部に次の役員を置く。

支部長 1 名

副支部長 1 名

幹事 若干名

監事 2 名

個人情報管理担当 1 名

学術集会会長 1 名

次期学術集会会長 1 名

（役員の任期）

第 10 条 役員の任期は 2 年とする。ただし再任は妨げない。役員に欠員を生じた場合、支部長が愛媛県に在住または勤務する日本医療マネジメント学会会員の中より補欠の役員を選任する。補欠の役員の任期は前任者の残任期間とする。

（役員の委任、選出）

第 11 条 支部長は幹事の互選により役員会で選出し、総会で決定する。

第 12 条 副支部長および監事は支部長が幹事の中から指名する。

第 13 条 支部長は愛媛県に在住または勤務する日本医療マネジメント学会会員の中から、役員会の議を経て若干名の幹事を追加指名することができる。

第 14 条 学術集会会長、次期学術集会会長は支部学術集会に際して行われる役員会で役員の中より選出する。

（役員の役割）

第 15 条 支部長は本支部を代表し会務を総括する。また、支部長は年 1 回以上支部総会を招集し、支部総会の議長を務める。また、支部総会において本支部の活動報告及び活動方針報告を行う。

第 16 条 副支部長は支部長を補佐し、支部長が事故あるときはその職務を代行する。

第 17 条 監事は本支部の会務、会計および財産を管理する。監事は支部総会において本支部の監査報告を行う。

第 18 条 学術集会会長は本支部の今期支部学術集会を主催する。次期学術集会会長は次回支部学術集会を主催する。

（役員会）

第 19 条 役員会は支部長、副支部長、幹事、監事、学術集会会長、次期学術集会会長を以て構成し、支部の活動を推進し、支部学術集会、研究発表会ならびに講演会などの集会を企画する。

第 20 条 支部学術集会当日には役員会を行う。また役員会は必要に応じて随時開催する。

（運営費）

第 21 条 本支部の運営のための費用は、支部学術集会の参加費および諸団体からの寄付金、補助金をもってこれに充てる。支部学術集会の参加費は別に定める。

第 22 条 支部学術集会の資料代は別途請求できることとする。

（会計年度）

第 23 条 本支部の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日をもって終わる。

(決算及び監査)

第 24 条 本支部の事務局、会計は毎年 4 月 30 日までに決算し、監事の監査を受けなければならない。また事務局はその会計結果を支部総会で報告しなければならない。

(会則の変更)

第 25 条 本支部の会則の変更は役員会で行い、支部総会に報告する。

(その他)

第 26 条 この会則に定めるものの他、本支部運営に必要な事項は役員会の議を経て、支部長、事務局が別に細則として定める。

第 27 条 会員の中から個人情報管理担当を選任し、本支部の会員情報を管理する。

(附則) この会則は令和 7 年 4 月 1 日より施行する。

日本医療マネジメント学会愛媛県支部会会告

日本医療マネジメント学会愛媛県支部 会告

会告1 日本医療マネジメント学会愛媛県支部会員お互いの呼称

日本医療マネジメント学会愛媛県支部ではお互いの呼称として「〇〇先生」は使用しない。

文書では「〇〇様」、呼ぶ時は「〇〇さん」でお願いします。

なお、「〇〇先生」を使用した場合の罰則規定はありません。

日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会特別講演講師のみ「〇〇先生」を使用します。

(2010/09/30)

会告2 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会発表者の入会義務

日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会発表者は学会会員に限られます。

未入会の日本医療マネジメント学会愛媛県学術集会発表者の皆様、入会手続きをお願いします。

なお、日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会参加については学会会員はもちろんのこと、学会会員以外の方もOKです。日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会には大勢の皆様のご参加をお願いします。

(2010/11/06)

会告3 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会参加者の事前登録

日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会参加者の事前登録はありません。

当日参加よろしくお願いします。

(2025/2/6)

会告4 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会参加費

第15回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会より、参加費について、学会非会員は1,500円、学会会員は1,000円とします。(なお愛媛県支部役員は1,500円です。)

(2025/2/6)

日本医療マネジメント学会愛媛県支部の歩み

【年月日】 【開催会名】

2010/05/22(土)	第0回日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員会(設立準備会)
2010/11/21(日)	第1回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2011/11/06(日)	第2回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2012/11/10(土)	第3回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2013/11/17(日)	第4回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2014/11/09(日)	第5回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2015/11/15(日)	第6回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2016/11/23(水)	第7回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2018/ 1/ 20(土)	第8回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2018/11/23(金)	第9回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2019/11/03(日)	第10回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2021/09/25(土)	第11回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2022/10/01(土)	第12回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2023/09/30(土)	第13回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2024/11/09(土)	第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2025/11/15(土)	第15回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会

日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員名簿

(2025 年 4 月現在)

役職	氏名	ふりがな	所属	肩書
支部長	櫃本 真幸	ひつもと しんいち	四国医療産業研究所	所長
副支部長	石川 賀代	いしかわ かよ	HITO病院	理事長
幹事	青儀 健二郎	あおぎ けんじろう	四国がんセンター臨床研究推進部	部長
幹事	石川 美保	いしかわ みほ	公立学校共済組合四国中央病院	看護部長
幹事	伊藤 千鶴	いとう ちづる	公益社団法人愛媛県看護協会	常務理事
幹事	井上 貴博	いのうえ たかひろ	有限会社アポトライ	代表取締役
幹事	井上 信彦	いのうえ のぶひこ	済生会松山病院	看護部長
幹事	今村 高暢	いまむら たかのぶ	愛媛生協病院	院長
幹事	大久保 啓二	おおくぼ けいじ	大洲中央病院	院長
幹事	越智 淳三	おち じゅんぞう	西条市立周桑病院	副院長
幹事	梶原 伸介	かじわら しんすけ	市立宇和島病院	事業管理者
幹事	北川 哲也	きたがわ てつや	公立学校共済組合四国中央病院	院長
幹事	木戸 保秀	きど やすひで	松山リハビリテーション病院	院長
幹事	児島 二美子	こじま ふみこ	北条病院	看護部長
幹事	古林 太加志	こばやし たかし	十全総合病院	名誉院長
幹事	崎田 智美	さきた さとみ	愛媛大学医学部附属病院	看護部長
幹事	高石 義浩	たかいし よしひろ	北条病院	院長
幹事	高橋 令子	たかはし れいこ	愛媛労災病院	看護部長
幹事	田淵 典子	たぶち のりこ	HITO 病院	副院長
幹事	鶴岡 裕昭	つるおか ひろあき	愛媛十全医療学院附属病院	病院長
幹事	中村 寿	なかむら ひさし	十全総合病院	院長
幹事	西尾 俊治	にしお しゅんじ	南高井病院	院長
幹事	長谷部 徳恵	はせべ のりえ	松山赤十字病院	看護部長

幹事	廣岡 昌史	ひろおか まさし	愛媛大学病院	総合診療サ ポートセン ター長
幹事	松野 剛	まつの つよし	済生会今治病院	院長
幹事	水田 史子	みずた ふみこ	十全総合病院	看護部長
幹事	宮嶋 優里	みやじま ゆり	済生会今治病院	看護部長
幹事	守屋 昭子	もりや あきこ	住友別子病院	看護部長
幹事	山岡 多恵	やまおか たえ	愛媛大学医学部附属病院	副看護部長
幹事	柚木 茂	ゆのき しげる	松山市民病院	院長
幹事	吉田 幸生	よしだ ゆきお	鬼北町立北宇和病院	院長
監事	田中 敬二	たなか けいじ	南松山病院	理事長
監事	岡部 健一	おかべ けんいち	旭川荘南愛媛病院	院長

第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会決算

	細目	収入金額	支出金額	合計
収入	学術集会入場料	¥54,000		
支出	特別講演講師旅費・宿泊費(1人分) (北条病院へ支払い)		¥64,060	
	懸垂幕(北条病院へ支払い)		¥28,600	
	会場費(北条病院へ支払い)		¥17,600	
	北条病院立て替え分振込手数料		¥550	
	優秀賞(クオカード)手数料含む		¥34,640	
	講師謝礼(40000円×1人分)		¥40,000	
合計		¥54,000	¥185,450	¥-131,450

2024年度日本医療マネジメント学会愛媛県支部決算

	細目	収入金額	支出金額	合計
収入	愛媛県支部会計より	¥444,436		
	預金利子	¥63		
	第15回学術集会運営費	¥54,000		
	預金利子	¥150		
支出	第15回学術集会運営費		¥185,450	
	2025年度 愛媛県支部会計へ		¥313,199	
合計		¥498,649	¥498,649	¥0

監査報告

2024年度日本医療マネジメント学会愛媛県支部の収支について、会計帳簿、預金通帳および証拠書類により監査いたしましたところ、適正に処理されておりました。

以上、監査の結果を報告いたします。

日本医療マネジメント学会愛媛県支部長 榎本 真事殿

2025年 5月12日

監事 岡部 健一

(自筆) 岡部 健一

2025年 5月20日

監事 田中 敬二

(自筆) 田中 敬二

第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会優秀演題賞

日時:2024年11月9日(土曜日)10:00～16:00

会場:松山市医師会館

学術集会会長:医療法人社団樹人会 北条病院 理事長院長 高石 義浩

◎最優秀演題賞

演題:「夜寝てもらおう」～せん妄予防対策の取り組み～

光田 美穂 様

医療法人社団樹人会 北条病院

◎奨励賞 4 演題

演題名:12時間夜勤導入の効果

地久里 公美 様

愛媛大学医学部附属病院 看護部

演題名:当院の院内トリアージ導入における取り組みについて

林 正徳 様

市立宇和島病院 看護部 救急外

演題名:外来採血の待ち時間短縮が実現できた取り組み

三木 昭子 様

医療法人 住友別子病院

演題名:当院における医師業務からCEヘタスクシフト(シェア)した実例と成果について

小野 慶人 様

社会医療法人石川記念会 HITO 病院 臨床工学科



特定非営利活動法人

日本医療マネジメント学会の入会案内と入会手続き

Japan Society for Health Care Management

<http://jhm.umin.jp/>

理事長挨拶



日本医療マネジメント学会が発足して28年目になります。本学会は医療の質の向上を求めてクリティカルパスをはじめ医療福祉介護の連携、安全管理等々、医療福祉介護の現場における各種の課題の研究、提案を行い、成果を上げて参りました。

本学会の主な活動には全国学術総会の開催があります。第27回日本医療マネジメント学会学術総会（会長 国立病院機構仙台医療センター名誉院長 上之原 広司 先生）は2025年7月18日、19日の2日間にわたり仙台国庫センター展示棟、江陽グランドホテルで開催され、日本全国から多数参加の下に熱心な発表と討論が行われました。会員各位の御協力に感謝申し上げます。

さて、第28回日本医療マネジメント学会学術総会（会長 トヨタ記念病院 病院長 岩瀬 三紀 先生）は2026年5月29日、30日の2日間にわたって“ポートメッセなごや”で開催されます。新新かつ充実したすばらしいプログラムが企画されています。

多数の皆様のご参加をお待ち致します。

理事長 宮崎 久義

学会組織

- 理事会 会務を執行。
- 評議員会 学会の重要事項を審議。
- 総会 学会の最高議決機関で、学術総会時に開催。
- 委員会 広範委員会：学会活動全般を学術総会及び学会非会員へ提供。学会ホームページの運用。企画委員会：学会主催のセミナーなどの企画・開催、学会発行の書籍の企画・出版。学術雑誌編集委員会：学術雑誌の企画、発行。クリティカルパス委員会：クリティカルパスの開発普及及びクリティカルパス・ライブラリーを運営。
- 医療安全委員会：医療安全全般に係る情報の収集、分析、発信。
- 地域医療委員会：地域の医療の在り方、地域医療支援病院に関する検討。
- 医療の質委員会：患者中心の医療の質の評価手法、医療の質の向上・維持手法について検討。
- 保険・医療制度対策委員会：学会活動で明らかになった諸問題に対し、関連機関へ働きかけ。
- DX委員会：DXに関する検討。
- 薬事委員会：薬事全般に関する検討。
- 倫理・COI委員会
- 個人情報保護委員会
- 分科会等 地域連携分科会、医療安全分科会、医療福祉連携講習会、医師事務作業補助者指導者養成講習会、クリティカルパス実務者・指導者養成講習会などの開催。
- 支部 各都道府県に支部を設置し、支部学術集会、研修会などの企画、運営。

入会申し込み

- 一般正会員 学会の趣旨に賛同される個人
- 年会費 医師・歯科医師 10,000円
医療スタッフ・福祉・一般 7,000円
- 主な特典 日本医療マネジメント学会雑誌（年間5号出版）、News Letterの提供
- 賛助会員 学会の趣旨に賛同される企業など
- 年会費 100,000円
- 主な特典 ・一般正会員1名と同等の特典
・学会主催展示会で優先的に展示場所割当
- 会計年度 本学会の会計年度は4月～翌年3月です。
- 入会申し込み 所定の入会申込用紙に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXにてお申し込みください。
本学会ホームページからも入会手続きは可能ですのでご利用下さい。

特定非営利活動法人
日本医療マネジメント学会

〒860-0806

熊本市中央区花畑町1番1号
大樹生命熊本ビル 3階

TEL:096(359)9099

FAX:096(359)1606

E-mail: office@jhm.or.jp

<http://jhm.umin.jp/>

設立の経緯

日本医療マネジメント学会は、1998年6月に発足したクリティカルパス研究会を基盤として設立されました。クリティカルパス研究会は、クリティカルパスを中心とした医療マネジメントのノウハウやツールを研究・開発する目的で、有志の医療関係者が集まって活動していた研究会です。その活動は、1998年6月に第1回定例会を開催、1999年11月までに講演会等を含め14回開催されました。中でも1999年6月に開催した第1回クリティカルパス全国研究交流フォーラム（つくば市）では、約1,800名の参加者があり、医療マネジメントへの関心の高さを認識しました。これを契機に、クリティカルパスをはじめ医療現場の課題を取り上げ、研究活動の更なる拡大を目的に学会に移行し、今日に至ります。

沿革

- | | | | |
|------------|--|------------------------------|--|
| 1998年6月 | 第1回クリティカルパス研究会 | 9月 | 雑誌「イザイ」創刊 |
| 1999年6月 | 第1回クリティカルパス全国研究交流フォーラム
（第1回学術総会）
【6月5日 つくば国際会議場
会場 小関 達（筑波記念病院院長）】
医療マネジメント学会設立 | 11月 | 医療安全分科会（名称変更）
「カルテレビューと安全ラウンドの実践」
日本学術会議協力学術研究団体指定 |
| 9月18日 | 第2回医療マネジメント学会学術総会
「さらなる医療の質の向上をめざして
—第2世代のクリティカルパス—」
【6月9日～10日 熊本県立劇場
会場 宮崎 久美（国立熊本病院院長）】 | 2007年 6月 | 第9回日本医療マネジメント学会学術総会
「医療のより良い提供体制とより良い利用方法を求めて
—限られた医療資源を有効利用するために—」
【7月13日～14日 グランドプリンスホテル新高輪
国際館パミール
会長 船越 勉之（NTT東日本関東病院院長）】 |
| 2000年3月～4月 | 学会設立記念セミナー全国7都市で開催 | 7月 | 書籍「5日間て学ぶ 医療安全超入門」発行 |
| 5月 | 医療マネジメント学会ホームページ開設 | 2008年 5月 | 第10回日本医療マネジメント学会学術総会
「安全・安心・信頼の医療
～未来につづく地域医療連携～」
【6月20日～21日 名古屋国際会議場
会長 稲垣 孝夫（トヨタ記念病院院長）】 |
| 6月 | 第3回医療マネジメント学会学術総会
「21世紀の医療サービスを考える」
【6月8日～9日 パシフィコ横浜
会場 小林 寛伊（NTT東日本関東病院院長）】 | 6月 | 書籍「クリティカルパス最近の進歩2008」発行 |
| 7月 | 第1回医療連携セミナー「地域医療連携の実践」 | 10月 | 平成20年度第1回医療連携分科会（名称変更）
「医療計画を理解する
～これからの地域医療連携の展望と課題」 |
| 2001年6月 | 第4回医療マネジメント学会学術総会
「効率的で安心できる医療を実現するために」
【6月28日～29日 京都府会館・京都市勧業館
会場 岡 隆宏（京都第一赤十字病院院長）】 | 2009年6月 | 第11回日本医療マネジメント学会学術総会
「新しい医療連携構築への展開
—医療・保健・福祉の地域活性化をめざして—」
【6月12日～13日 長崎ブリックホールほか
会長 米倉 正大（国立病院機構長崎医療センター院長）】 |
| 10月 | 第1回リスクマネジメント・セミナー
「患者の安全確保をめざして」 | 11月 | 2009年度第1回電子化分科会（名称変更）
「地域医療ネットワークのIT化
—地域医療連携の現状とこれからのIT化の展望を問う！—」 |
| 12月 | 書籍「新たな医療連携の実践—その現状と方策—」発行 | 2010年5月 | 2010年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール）
書籍「がん地域連携クリティカルパス
—がん医療連携とコーディネート機能—」発行 |
| 2002年1月 | クリティカルパスセミナー
「クリティカルパスの導入と展開」 | 6月 | 第12回日本医療マネジメント学会学術総会
「チームでめざすこれからの医療
—食費で安全な医療サービスの提供のために—」
【6月11日～12日 札幌コンベンションセンターほか
会長 奥 重信（札幌社会保険総合病院院長）】 |
| 6月 | 第5回医療マネジメント学会学術総会
「医療改革としての医療マネジメント」
【6月13日～14日 仙台国際センター
会長 山内 英生（国立仙台病院院長）】 | 7月 | 2010年度医療福祉連携講習会（第1クール） |
| 7月 | 書籍「急性期病棟のあり方と外来分科」発行 | 11月 | 2010年度第2回医師事務作業補助者講習会（第1クール） |
| 10月 | 第1回クリティカルパス実践セミナー—熊本 | 2011年4月 | 医療福祉連携士第1期生認定 |
| 2003年1月 | 第1回電子カルテセミナー
「電子カルテ導入を目指して」 | 5月 | 2011年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール） |
| 2月 | 書籍「クリティカルパス最近の進歩2003」発行 | 6月 | 第13回日本医療マネジメント学会学術総会
「地域で守る患者中心の医療—チーム医療と医療連携—」
【6月24日～25日 京都市勧業館みやこめっせほか
会長 雪川 嘉徳（市立富山市民病院院長）】 |
| 6月 | 第6回医療マネジメント学会学術総会
「患者中心の医療を考える
—クリティカルパスのより良い、より広い活用方法を求めて—」
【6月18日～19日 サンポートホール高松
香川県県民ホール
会長 原田 英道（香川労災病院院長）】 | 7月 | 書籍「医療安全のリーダーシップ論」発行 |
| 10月 | 書籍「クリティカルパス実践セミナーテキスト」発行 | 2011年度医療福祉連携講習会（第1クール） | |
| 2004年1月 | 第1回「FDPC対応型クリティカルパス」特別セミナー | 10月 | 2011年度第2回医師事務作業補助者講習会（第1クール） |
| 2月 | 書籍「クリティカルパス最近の進歩2003」韓国版発行 | 2012年6月 | 2012年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール） |
| 6月 | 第7回医療マネジメント学会学術総会
「患者中心の医療を考える
—クリティカルパスのより良い、より広い活用方法を求めて—」
【6月18日～19日 サンポートホール高松
香川県県民ホール
会長 原田 英道（香川労災病院院長）】 | 7月 | 2012年度医療福祉連携講習会（第1クール） |
| 7月 | 雑誌「医療安全」創刊 | 10月 | 第14回日本医療マネジメント学会学術総会
「地域医療の発展とチーム医療と地域連携をさらに進める
ヒューマンネットワーク作りを目指して」
【10月12日～13日 アルカスSASEBOほか
会長 山口 隆典
（佐世保市立総合病院 病院管理部長兼院長）】 |
| 10月 | 書籍「研修医のためのクリティカルパス活用ガイド」発行 | 2012年度第2回医師事務作業補助者講習会（第1クール） | |
| 2005年4月 | 書籍「クリティカルパスの新たな展開」創刊 | 2013年6月 | 第15回日本医療マネジメント学会学術総会
「とりもどそう あたらしい医療を
—地域とつながる医療の未来—」
【6月14日～15日 マリオス（豊中市民文化ホール）ほか
会長 望月 卓（市立富山市民病院院長）】 |
| 6月 | 第8回医療マネジメント学会学術総会
「医療の安全と質—医療・介護連携の発展をめざして—」
【6月16日～17日 パシフィコ横浜
会長 高橋 俊毅（国立病院機構長崎医療センター院長）】 | 7月 | 2013年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール）
書籍「なごろんて読む
WHO患者安全カリキュラムガイド」発行 |
| 8月 | 雑誌「連携医療」創刊 | 2013年度医療福祉連携講習会（第1クール） | |
| 9月 | 書籍「臨床指標の実践」発行 | | |
| 2006年1月 | 第4回電子カルテ分科会（名称変更）
「医療情報システムの標準化と情報保護」 | | |
| 5月 | 地域連携クリティカルパス分科会 | | |
| 6月 | 第9回日本医療マネジメント学会学術総会
「医療の安全と質—医療・介護連携の発展をめざして—」
【6月16日～17日 パシフィコ横浜
会長 高橋 俊毅（国立病院機構長崎医療センター院長）】 | | |

2013年11月	2013年度第2回医師事務作業補助者講習会(第1クール)	2020年10月	書籍「医療安全研修テーマ・実践例集 研修が活性化する計画から実施のコツまで」発行
2014年5月	2014年度第1回医師事務作業補助者講習会(第1クール)	2021年7月	第23回日本医療マネジメント学会学術総会 「今、医療・介護に大切なこと～変革に挑戦する～」 【7月15日～30日 完全Webオンデマンド配信 会長 亀山 雅男 (社会医療法人生会会ベルランド総合病院理事長)】
6月	第16回日本医療マネジメント学会学術総会 「素早く動くために 一医療の進むべき道を求めて～」 【6月13日～14日 岡山コンベンションセンターほか 会長 青山 典男 (国立病院機構岡山医療センター名誉院長)】	9月	2021年度医療福祉連携講習会(第1クール)
7月	2014年度医療福祉連携講習会(第1クール)	2022年7月	第24回日本医療マネジメント学会学術総会 「持続可能な地域医療を目指して ～機能分化・連携と人材マネジメント～」 【7月8日～9日 神戸ポートピアホテル 神戸国際会議場 会長 大西 祥男(地方独立行政法人加古川市民病院機構 理事長 兼 加古川中央市民病院院長)】
10月	2014年度医師事務作業補助者指導者養成講習会(第1クール)	2023年2月	2022年度地域連携分科会(名称変更)
2015年5月	2015年度医療福祉連携講習会(第1クール)、 2015年度第1回医師事務作業補助者講習会(第1クール)	6月	第25回日本医療マネジメント学会学術総会 「『病院医療の展望』～『ワンデミック・災害と BCP』から『求められる医療』へ～」 【6月23日～24日 / 伊フィコ横浜 会長 山本 登 (横浜メディカルグループ総合病院理事長)】
6月	第17回日本医療マネジメント学会学術総会 「医療における不確実性～我々からいじめ、変わるもの～」 【6月12日～13日 グランキューブ大阪(大阪国際会議場) 会長 山根 哲郎 (パナソニック健康保険組合松下記念病院院長)】	8月	書籍「医療・看護現場の心理的安全性のすすめ」発行、 2023年度医療福祉連携講習会(第1クール)
7月	書籍「ストレス要因別 「防げたはず」のエラーが起こる瞬間」発行	10月	2023年度医師事務作業補助者指導者養成講習会(第1クール)
10月	2015年度医師事務作業補助者指導者養成講習会(第1クール)	2024年6月	第26回日本医療マネジメント学会学術総会 「信頼と誇りによる医療マネジメント ～地域と共に育つ、安全な医療をつくる～」 【6月21日～22日 福岡国際会議場、福岡サンパレス 会長 中野 祐樹(福岡赤十字病院院長)】
2016年4月	第18回日本医療マネジメント学会学術総会 「明るい病院改革 ～医療とイノベーションで切り拓く明日の最先端医療～」 【4月22日～23日 福岡国際会議場 福岡サンパレス 会長 田中 二郎(東京病院名誉院長)】	8月	2024年度医療福祉連携講習会(第1クール)
6月	2016年度医療福祉連携講習会(第1クール)、 2016年度医師事務作業補助者講習会(第1クール)	9月	2024年度医師事務作業補助者指導者養成講習会(第1クール)
9月	書籍「そのときどうする!？」 予期せぬ急変・死に時の現場対応マニュアル」発行	2025年7月	第27回日本医療マネジメント学会学術総会 「少子・高齢化時代の医療マネジメント ～医療・介護に求められる変革～」 【7月18日～19日 仙台国際センター 展示棟ほか 会長 上之原 広司 (国立病院機構仙台医療センター名誉院長)】
10月	2016年度医師事務作業補助者指導者養成講習会(第1クール)	9月	書籍「最新クリティカルパス教本」発行、 書籍「患者と自分たちを守るKYT防災ブック 災害への 備えと「そのとき」取るべき行動がわかる!」発行
2017年5月	2017年度医師事務作業補助者講習会(第1クール)	2025年7月	2025年度医療福祉連携講習会(第1クール)
7月	2017年度医療福祉連携講習会(第1クール)、 第19回日本医療マネジメント学会学術総会 「地域を守るあたたかな医療 ～患者・職員の満足をめざして～」 【7月7日～8日 仙台国際センター 会長 田所 慶一 (国立病院機構仙台医療センター名誉院長)】		
10月	2017年度医師事務作業補助者指導者養成講習会(第1クール)		
2018年6月	第20回日本医療マネジメント学会学術総会 「信頼・地域に根ざした強いチーム力を培う」 【6月8日～9日 ニトリ文化ホールほか 会長 藤部 宏(KKR札幌医療センター病院院長)】		
7月	2018年度医療福祉連携講習会(第1クール)		
10月	2018年度医師事務作業補助者指導者養成講習会(第1クール)		
2019年1月	2018年度クリティカルパスワークショップ		
6月	2019年度医療福祉連携講習会(第1クール)		
7月	第21回日本医療マネジメント学会学術総会 「私たちの働き方改革 ～食費で成り立つ日本の医療をめざして～」 【7月19日～20日 名古屋国際会議場 会長 鍋川 孝郎(地域医療機能推進機構中京病院院長)】		
8月	書籍「臨床事例で学ぶコミュニケーションエラーの “心理学的”対処法」発行、		
10月	2019年度医師事務作業補助者指導者養成講習会(第1クール)		
2020年10月	第22回日本医療マネジメント学会学術総会 「病院ビッグデータ革命～データ活用による「医療の質」 「医療・介護連携」の飛躍(Leap)を求めて～」 【10月6日～7日 みやこめっせ(京都市勧業館)ほか 会長 三木 恒治(済生会滋賀県病院院長)】		

学会の活動

- 学術総会の開催
- 日本医療マネジメント学会雑誌の発行(5冊/年)
- News Letterの発行
- 書籍発行
- 地域連携分科会、医療安全分科会、医療福祉連携講習会、
医師事務作業補助者指導者養成講習会、
クリティカルパス実務者・指導者養成講習会などの開催
- 保健医療政策に対する関係機関への働きかけ
- 委員会・分科会
- 支部学術集会の開催

第28回日本医療マネジメント学会学術総会
2026年5月29日(金)～30日(土)
ポートメッセなごや
会長：岩瀬 三紀
(トヨタ記念病院 病院院長)



第28回 日本医療マネジメント学会 学術総会

The 28th Annual Meeting of the Japan Society for Health Care Management



地域住民の健康寿命を延伸する医療マネジメント
～医療および福祉施設の健康的な経営も視点にいれて～

2026年5月29日(金)・30日(土)

会場 | ポートメッセなごや 会長 | 岩瀬 三紀 トヨタ記念病院 病院長



学術総会事務局: トヨタ記念病院 経営支援・デジタル変革グループ 〒471-8513 愛知県豊田市平和町1-1

学術総会運営事務局: 株式会社コングレ中部支社内 〒461-0008 愛知県名古屋市中区武平町5-1 名古屋栄ビルディング7F
TEL: 052-950-3430 FAX: 052-950-3370 E-mail: jhm2026@rm.congre.co.jp

<https://www.congre.co.jp/jhm2026/>



日本医療マネジメント学会への入会のご案内（郵送または FAX による申込方法）

※ホームページからの入会方法は <http://jhm.umin.jp/> をご覧下さい。

入会申込(一般正会員及び賛助会員):入会されますと退会の申し出があるまで自動継続となります。

◎**一般正会員** 学会の趣旨に賛同される個人

年 会 費 医師・歯科医師 10,000 円

医療スタッフ・福祉・一般 7,000 円

主 な 特 典

・日本医療マネジメント学会雑誌（年間 5 冊出版）、News Letter 提供

手 続 き

一般正会員のお申込は、次頁の一般正会員入会申込書を記入し、郵送または FAX にて学会事務局までお送り下さい。

入会申込書受理後、学会事務局より年会費の払込取扱票をお届けしますので、郵便局またはコンビニエンスストアでお振り込み下さい。年会費のご入金確認後、学会会員番号通知をお届けします。学会会員番号通知がお手元に届きましたら、手続きは完了です。

メールアドレスをご登録頂いた方には、年会費のご入金確認後、メールにて会員マイページのご案内をお届けします。会員マイページにログイン後、学会会員番号をご確認頂けます。

なお、一般正会員の入会申込は学会ホームページからも可能です。

※入会申込を頂いてから、学会会員番号通知がお手元に届くまで 10 日ほどかかります。

◎**賛助会員** 学会の趣旨に賛同される企業など

年 会 費 100,000 円

主 な 特 典

・一般正会員 1 名と同等の特典

・学会主催展示会で優先的に展示場所割当

手 続 き

賛助会員のお申込は、別途所定の申込用紙がございますので学会事務局までご連絡下さい。

※ 会計年度は 4 月～翌年 3 月です。年度途中の入会であっても年会費全額を納入して頂きます。

※ 入金された日が入会日となります。

※ 一度入金された年会費は返金できませんので、ご注意下さい。

※ 過去に本学会会員となられ、年会費の滞納を理由に退会された方が、再入会を希望される場合は、滞納分年会費をお支払い頂く必要がございます。入会申込書受理後、学会事務局より滞納分と新規入会分を合わせた年会費の払込取扱票をお届けいたします。

※ 退会希望の場合、退会希望年度の末日（3 月 31 日必着）までに退会手続きをして下さい。

(郵送または FAX でのお申込)

FAX 096-359-1606

TEL 096-359-9099 E-mail office@jhm.or.jp

入会申込日	年 月 日					
会員種別	☐ 医師・歯科医師 ☐ 医療スタッフ・福祉・一般 （いずれかに✓）					
ふりがな				性 別（いずれかに✓）		
氏名				☐ 男 ・ ☐ 女		
勤務機関	名称					
	所属・役職					
	職種 （いずれかに○）	1.医師・歯科医師 2.看護師・保健師・助産師 3.薬剤師 4.臨床検査技師 5.診療放射線技師 6.理学療法士 7.作業療法士 8.言語聴覚士 9.臨床工学士 10.管理栄養士 11.社会福祉士 12.精神保健福祉士 13.公認心理師 14.診療情報管理士 15.事務 16.企業 17.その他（ ）				
	所在地	〒				
	電話番号			FAX 番号		
	E-mail	※同一のメールアドレスを複数人で使用することはできませんので 個人のメールアドレスをご記入ください。				
		当学会からのメールの配信を希望されない方は、 ☐ メール配信を希望しない 右記にチェックを入れて下さい。				
自宅	住所	〒				
	電話番号			FAX 番号		
連絡先	☐ 勤務先 ☐ 自宅 （いずれかに✓） ※学会雑誌の送付先となります。					
生年月日	(西暦) 年 月 日					
事務局 使用欄						受付印